

病害虫発生予察情報

令和7年5月30日

病害虫発生予察情報（飛騨地域） 6月予報

今後1カ月の曇りや雨の日は、第1週で平年より多く、第2週で少なく、第3、4週で平年と同様に多い予報となっており、病気の発生が多くなることが懸念されます。

病害虫の早期発見・早期防除に努め、作物の健全な生育の維持を心がけましょう。

【水 稲】水田を見回り、葉いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。

【果 樹】県下全域にカメムシ類の注意報が発表（5/23）されており、飛騨地域でも発生が多くなっています。発生に注意し適期防除に努めましょう。

【野 菜】各品目の播種時や定植時には、油断せずアブラムシ類・ネキリムシ類・タネバエ対策の粒剤施用等を実施しましょう。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測（6月）

病害虫名 発生量	防除時期の目安と発生消長の一例									防除上の注意事項等		
	6月						7月					
	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬			
水 稲	イネミズゾウムシ	箱施薬がない場合						成虫				5月21日に予察灯で1,124頭（萩原）、11頭（国府）と近年になく多い誘殺があった。多発時には本田防除を実施する。（防除の目安：100株当たり寄生数が30頭以上）
	発生量： 多											
	イネドロオイムシ	箱施薬がない場合						幼虫				移動性が低いため、被害場所は常発地になりやすく、発生が多い地域がある。多発時には本田防除を実施する。
水 稲	葉いもち	箱施薬がない場合										補植苗は発生源になるので早めに除去する。感染好適条件は平年で6月下旬頃から現れる。BLASTAMIによる感染好適条件を確認する。
	発生量： やや多											
	カメムシ類	果樹園への飛来があれば										予察灯、フェロモントラップ共、誘殺量は多い。夜温が高いと果樹園への飛来が多くなる。今後、気温が高くなるにつれ、飛来は増加する。飛来状況に注意し、適期防除に努める。
果 樹	発生量： 多											
	ナシヒメシンクイ	フェロモントラップ誘殺量						ふ化幼虫発生盛期				被害新梢（芯折れ）の発生に注意する。フェロモントラップの誘殺数は多い。近縁種のスモヒメシンクイでも発生が多い。
	発生量： やや多											
果 樹	ももせん孔細菌病	袋かけ前に実施										罹病枝は見つけたら切除し、ほ場外に持ち出し処分する。袋かけ前に防除を実施する。多発するほ場では早めの袋かけて果実被害が低減できる。
	発生量： 少											
	ネキリムシ類	← 定植・播種時粒剤散布 →										ネキリムシ類の潜在的発生量は多く（R6高山市フェロモントラップ例1,460頭/年）安定している。被害が発生してからでは手遅れとなるので、定植時・播種時に粒剤を施用する。
野 菜 全 般	発生量： 並											
	アブラムシ類	↓										高温乾燥が続くと多発する可能性が高くなる。防虫ネットやシルバーマルチ等で飛来を抑制する。育苗ハウスからの、本ほへの持ち込みに注意する。
	発生量： やや多											
野 菜 全 般	コナガ	↓										アブラナ科野菜や雑草で周年生息を続けている。薬剤抵抗性が発達しているため、同一系統薬剤の連用は避けるとともに、抵抗性がついた薬剤の使用を止め、効果が確認されているものに切り替える。
	発生量： 多											

病害虫名 発生量	防除時期の目安と発生消長の一例									防除上の注意事項等		
	6月						7月					
	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬			
ホウレンソウ	べと病 発生量: やや少	← 1作1回は防除を実施 →									発病に好適な湿度が高い時期は換気を行い、発病前に予防防除に努める。 春の発生は少なかったが、油断はしない。	
	タネバエ 発生量: 少	← 播種時粒剤散布 →										未熟堆肥や鶏ふん等に含まれる化合物の臭いや、耕起後の湿った場所に集まりやすい。 6月は発生が多い時期なので、播種時の粒剤散布を省略しない。
	ホウレンソウケガコナダニ 発生量: 並	← 定期防除 →										
トマト	灰色かび病 発生量: 並	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 定期防除 ↓ 葉先枯れ発生 ↓ ↓ </div>									花がらが残っていると病原菌が付き、果実に発病する可能性が高くなる。花がらは早期に除去する。 6月後半頃から葉先枯れが発生する。枯れた部分に病原菌が付くので早期に除去する。	

トマトキバガについて

1. 発生の概要

病害虫防除所では、昨年秋から今年の春にかけて冬期間に、飛騨地域内2カ所で新たなトマトの害虫トマトキバガの発生状況を調査しました。

また昨年の秋は12月まで、今年の春は3月から、現地ほ場において発生調査を行っています。

その結果、昨年は飛騨地域では越冬した可能性は低く、トマトキバガは地域外から飛来している可能性が高いと考えられました。

昨年は、飛騨地域では一部で発生し、県内では広範囲に発生した地区もありました。今年は3月下旬からフェロモントラップへの誘殺がみられ、5月下旬からは増加傾向です。

トマトキバガは増殖力が強く、薬剤抵抗性がつきやすいことから、今後とも警戒が必要です。



原図：農林水産省植物防疫所

2. 特徴および被害の様相と対処法

- ・成虫で体長5~7mm、幼虫は終齢で約8mmと小さい。葉を薄皮状に食害し、果実には穿孔侵入する。
- ・トマトキバガの発生が疑われる場合は、速やかに農業普及課または病害虫防除所に連絡し、発生種の確認を行う。
- ・ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- ・発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果はほ場に放置せず、速やかに土中深く埋めるか、ビニル袋に入れて一定期間密封し成幼虫を死滅させるなど、適切に処分する。
- ・使用する具体的な薬剤名等、詳しくは病害虫防除所ホームページで令和6年度発生予察特殊報第1号をご覧ください。

東海地方1か月予報
(名古屋地方气象台5月29日発表)

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

6~8月は「農薬危害防止運動期間」です

「使用前、周囲よく見て ラベル見て」 農薬ラベルの表示事項の遵守と、周辺環境への農薬の飛散防止を徹底してください。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。(トップページQRコード→)

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2934.html>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468

TEL (0577) 33-1111(内線 245) FAX (0577) 34-2706



トップページ



BLASTAM
(いもち病情報)